



「神楽でまちづくりプロジェクト」

NPO 法人まなびデザインラボ × 三作神楽保存会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



三作神楽の後継者確保と新たな雇用の創出

1. 地域の特産品のリブランディング・販売などにより地域所得を創出し、
コミュニティビジネスとして所得の一部を三作神楽の伝承活動に充てる。
2. ホームページを立ち上げ、三作神楽の認知度を上げ、通い後継者制度を確立し、
地域特産品の販売促進や新たな雇用の創出などの地域活性化につなげる。

PROJECT POINT

- ① 時代に合った伝承の形（通い後継者制度）の策定
- ② 後継者のレベルの可視化による意識改革

APPROACH

三作神楽の認知度を高め、新たな後継者制度で次世代の後継者を呼び込む

「神楽でまちづくりプロジェクト」の取り組み

現在はまだ後継者がいるが、地域の高齢化・過疎化に伴い、このままいけば三作神楽が消滅してしまうという危機を感じ、プロジェクトを開始した。時代に合った伝承の形（通い後継者制度）を作り、新たな後継者を呼び込むことができた。「三作神楽式年祭（7年ごとの卯年、西年に五穀豊穣、疫病退散を河内社に祈願し、奉納する式）」では、5名が後継者として入って来た。また、後継者の現在のレベルを可視化することで、後継者の意識の改革をすることもできた。

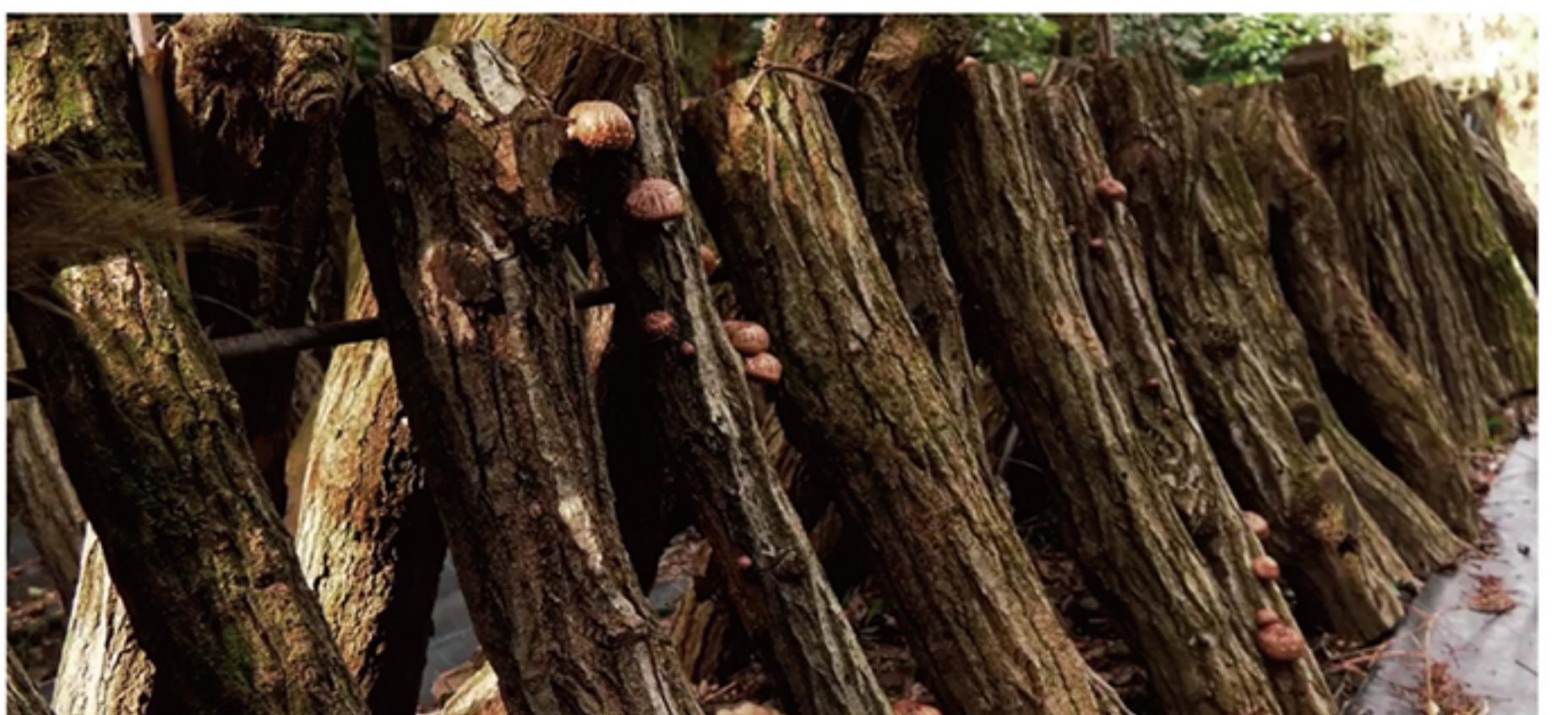
「神楽でまちづくりプロジェクト」の目標

代々受け継がれてきた「三作神楽」を若い世代に引き継ぐため、ホームページなどを立ち上げるなどして、三作神楽の認知度を上げ、これからも後継者を呼び込む活動を続け、三作神楽が永久に続くよう今後も活動を続けていく。さらに、地域の特産品のリブランディング・販売などにより新たな雇用、地域所得を創出し、コミュニティビジネスとして所得の一部を三作神楽の伝承活動に充てていく。

【取材日：2018.01.30 / 2018.01.31】



新たな『仕事』『作業』の創出をしたいということで



「苔谷「農」×「福」連携 プロジェクト」

古民家ラボ 歩木-hoco- × 特定非営利活動法人周南のぞみ会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



じいたけ栽培をすることで『集落』に人が来るようになり

限界集落の地域活性化と障害者の就労問題解決

原木椎茸栽培で耕作放棄地、空き家の活用に取り組むとともに
農産物栽培や観光農園の開設での地域活性と、農産物の加工・出荷作業による
障害者の就労機会の確保、農業現場における人材確保を目的とする。

PROJECT POINT

- ① 限界集落の耕作放棄地、空き家の活用
- ② 農産物栽培や観光農園の開設での地域活性
- ③ 新たな雇用の創出による障害者の就労機会と農業現場における人材確保

APPROACH

農産物栽培や観光農園の開設による低賃金改革と土地の再生による地域活性化

“苔谷「農」×「福」連携プロジェクト”的取り組み

過疎化・高齢化が進んだ苔谷の耕作放棄地、空き家を原木椎茸栽培に活用し、土地や空き家を再び蘇らせた。また、人が集落に行き来することで地域活性化に繋げることができた。障害者の賃金が山口県の平均水準を下回っている現状から脱却するため、農業現場における人材の確保や農産物栽培・観光農園を開設し、農産物の加工や出荷作業における就労機会の場として障害者を雇用し、賃金水準の上昇を図った。

“苔谷「農」×「福」連携プロジェクト”的目標

障害者の就労機会の場が山口県全体で少ないので、このプロジェクトを継続、障害者の就労の機会を増やしていく。また、苔谷には耕作放棄地、空き家が沢山あるので農産物栽培や観光農園、原木椎茸栽培にさらに活用していく。

【取材日：2018.01.31】



「山口県初 須金リトリートセンタープロジェクト」

有限会社福田フルーツパーク × fu do ku kan Bamboo × 株式会社 なかや × 鉄馬工藝舎

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



豊かな環境を活かした新たな産業の創出

「体に優しい食事・自然の中でのアクティビティ・心身の深いリラックス」の3つのアプローチで、誰にでも本来備わっている自然治癒力を高める宿泊と食事と体験を提供し、交流人口の増加をはかりながら新たな産業(リトリート産業)を創出する。

PROJECT POINT

- ① 須金の豊かな自然を活かして新たなリトリート産業を創出し、交流人口の増加を図る

APPROACH ▶ 3つのアプローチポイントを定め、自然治癒力を高める宿泊・食事・体験を提供する

“山口県初 須金リトリートセンター プロジェクトチーム”的取り組み

須金地区は観光農園が盛んで、シーズン中は人の往来があり活気のある地域だが、緩やかに限界集落化が進んでいる地域もある。数十年後を見据えると観光農園以外にも新たな産業を生み出し、年間を通して須金の交流人口を増やしていく必要がある。この問題を解決するために須金の自然というものに着目し、豊かな自然環境の中でリラックスして過ごす(嫌なことをしない・楽しいことをする)ことで「人間の自然体の治癒力」=「自然治癒力」を高めるための場を提供した。これを新たなリトリート産業として創出し、地域の交流人口の増加を図っている。

“山口県初 須金リトリートセンター プロジェクトチーム”的3つのアプローチ

自然治癒力を高めるための食事(須金で採れた食材を使った体に優しい料理を提供)・体験(須金で採れたブドウを使った自然食材のお菓子づくり体験)・宿泊(緑豊かな自然を感じられる宿泊施設)の3つのアプローチでお客様に癒しの場を提供した。今後もこの活動を続け、さらに交流人口を増加させていく。

【取材日:2017.12.11】



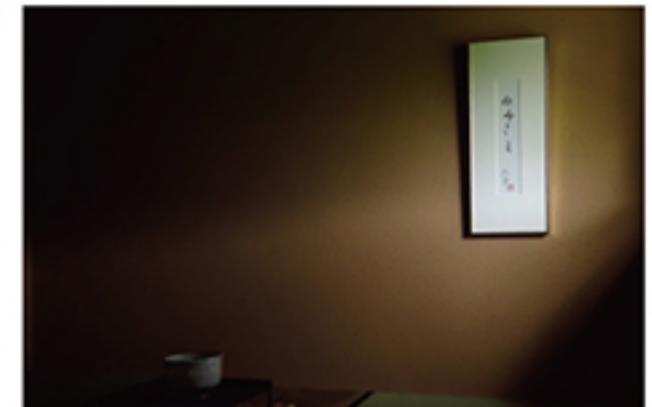
石柱庵を活用した茶談会



「石柱庵とナチュラル アートプロジェクト」

プログラム大津島 × 大津島地区コミュニティ推進協議会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他（国際交流）
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



アートを通じて新たな大津島の魅力を発信する

お茶や「石」のアートを通じて、大津島の独自の文化や歴史に触れる機会を提供し、新たな島の魅力を発信すると共に観光客の増加、地域の活性化を図る。

PROJECT POINT

- ① お茶や「石」のアートを通して観光客の増加・地域の活性化を図る
- ② 大津島独自の文化や歴史に触れてもらう機会を作る

APPROACH 新たな観光コンテンツの造成による観光客の誘致

“石柱庵とナチュラルアートプロジェクト”的取り組み

人間魚雷「回天」の歴史の島で知られる大津島には、豊かな自然と島民の素朴な暮らしが今も息づいている。コンビニや娯楽施設もなく、まさに日本の原風景とも言えるこの島の財産を活用するため、十数年に渡って計画していた「石柱庵とナチュラルアートプロジェクト」を共同プロジェクトに参加することで本格的に始動させ、このプロジェクトの総合プロデューサーである陶芸家・内田鋼一氏の元で「石柱庵」を作り新たな観光コンテンツを造成した。そこで定期的な茶談会を開催するなどして観光客を誘致し、地域を活性化させ、大津島の良さをアピールした。

“石柱庵とナチュラルアートプロジェクト”的目標

大津島には回天の歴史や文化など沢山の財産があるが、限界集落になりつつあり、島はいずれ無人島になってしまう可能性がある。無人島にしないために島へ来る観光客の数をさらに増やし、交流人口を増加させることで地域が活性化するようホームページを立ち上げるなどして、プロジェクトの活動を続けていきたい。



「重森三玲庭園再発見・再考察プロジェクト「名勝指定に向けて」」

重森三玲庭園の会 × 鹿野アートフェスティバル実行委員会 × (一財)周南観光コンベンション協会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



重森三玲が創った漢陽寺庭園を名勝指定にする

漢陽寺庭園を近い将来名勝指定にするための活動として広報活動や学術的資料の整備、さらに庭園を媒体としたツアー企画を目的とし、地域の観光資源を活かして交流人口の増加と地域活性化につなげていく。

PROJECT POINT

- ① 高齢化・過疎化が進む地域の問題解決
- ② 重森三玲の創った漢陽寺庭園の活用・認知度向上

APPROACH → 独自のツアー企画の策定や、認知度向上のためのPR動画の作成

「重森三玲庭園再発見・再考察プロジェクト「名勝指定に向けて」」の取り組み

鹿野地域は周南市の中でも高齢化・過疎化が進んでいることが地域づくりの問題点だった。この問題解決に取り組むためには、地域の孤立化を防ぎ、交流人口を増やし、活性化させる必要がある。そこでプロジェクトを立ち上げ、鹿野地域の「資源」でもあり「たから」でもある重森三玲の創った漢陽寺の「曲水の庭」に注目し、独自のツアー企画やPR動画を作成するなどして、様々な人に鹿野地域の良さを知ってもらった。

「重森三玲庭園再発見・再考察プロジェクト「名勝指定に向けて」」の目指すこと

最終目標としては、文化庁からの「名勝指定」に認定されることである。名勝指定を受けるために、まずは登録記念物の指定を受けなければならず、文化庁へのアプローチを続けている。アプローチ方法としては「重森三玲庭園」を所有する漢陽寺と協力し、普段は非公開の庭をめぐることができる独自のツアー企画を策定した。観光地として周知を高めながら名勝指定に向けて、今後も活動を続けていく。



「周南市北部の地域交流プロジェクト」

ふれあいの森なんでも工房 × 沼城小学校育友会(PTA) × 須々万おやじの会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



施設の利用者の増加・新たな後継者の発掘と育成を図る

15年間かけて整備してきた「須々万ふれあいの森」の施設や整備をSNSなど活用して広く呼びかけることで、世代間交流や周南市北部の地域づくり活動の施設利用増加と、事業を通して地域づくりを担う人材の発掘・育成を図る。

PROJECT POINT

- ① SNSやインターネット・パンフレットを活用したお客様への施設のアプローチ
- ② 施設を担う次世代の後継者、担い手の発掘
- ③ 周南市北部の活動拠点の中心となるような取り組み

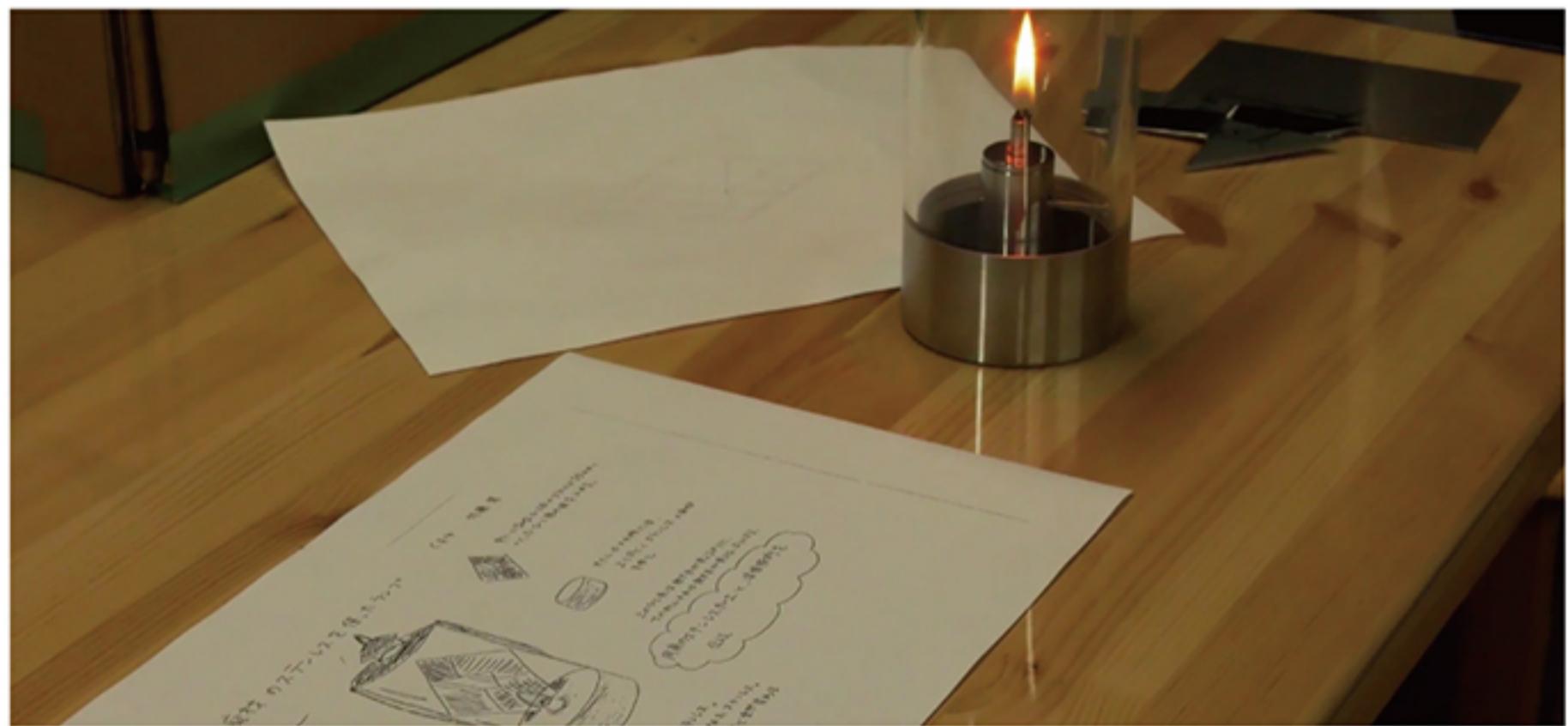
APPROACH 今までと違う周知方法での利用者の拡大と後継者の発掘

“周南市北部の地域交流プロジェクト”的取り組み

15年かけて整備してきた「ふれあいの森なんでも工房」だが、メンバーの高齢化が進み存続が危うい状態のため、施設を担う次世代の後継者を集みたい。そのために、これまで口コミで活動してきた施設をSNSやインターネット・パンフレットを活用して積極的に情報配信し、社会全体に周知することで施設の利用者を増やし、多くの人の目に触れ、後継者の発掘を図った。また、自然に囲まれた敷地内にはアスレチック施設や手作り道具を設置し、木工・竹細工などの工房体験、ピザ釜を使った野外料理体験など、老若男女問わず訪れることができる施設として周南市北部の活動拠点となるように取り組んでいる。

“周南市北部の地域交流プロジェクト”的目標

「ふれあいの森なんでも工房」は木工細工・草木染め・はた織りなど色々なものづくりを体験することができる施設のため、子どもや大人に施設を幅広く周知し、ハンドメイドやサークル活動の場として利用拡大を図りたい。また、工房に関わるメンバーを増やし、その中から工房の後継者、担い手を発掘し共に施設を盛り上げていきたい。



「周南ランプフェス」～人と街と灯りプロジェクト

有限会社レンタックス × 徳山商工会議所青年部(青友会) × 徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 × 福川らんぶ会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



ランプを通してコミュニティ組織の活性化を図る

周南の地域資源(素材・技術・人材)を結集させたランプを作成し、福川地区を中心に冬のツリー祭りやイベント等で活用することで、地域内外の団体同士の連携・協力がさらに高まり、コミュニティ組織の活性化に結び付ける。

PROJECT POINT

- ① 地元企業や工業高校と協力し、新たなランプの造成
- ② ランプを使用したイベントを開催
- ③ ランプを通して様々なコミュニティ組織の活性化

APPROACH イベント等でランプを活用し、福川ランプの周知に取り組む

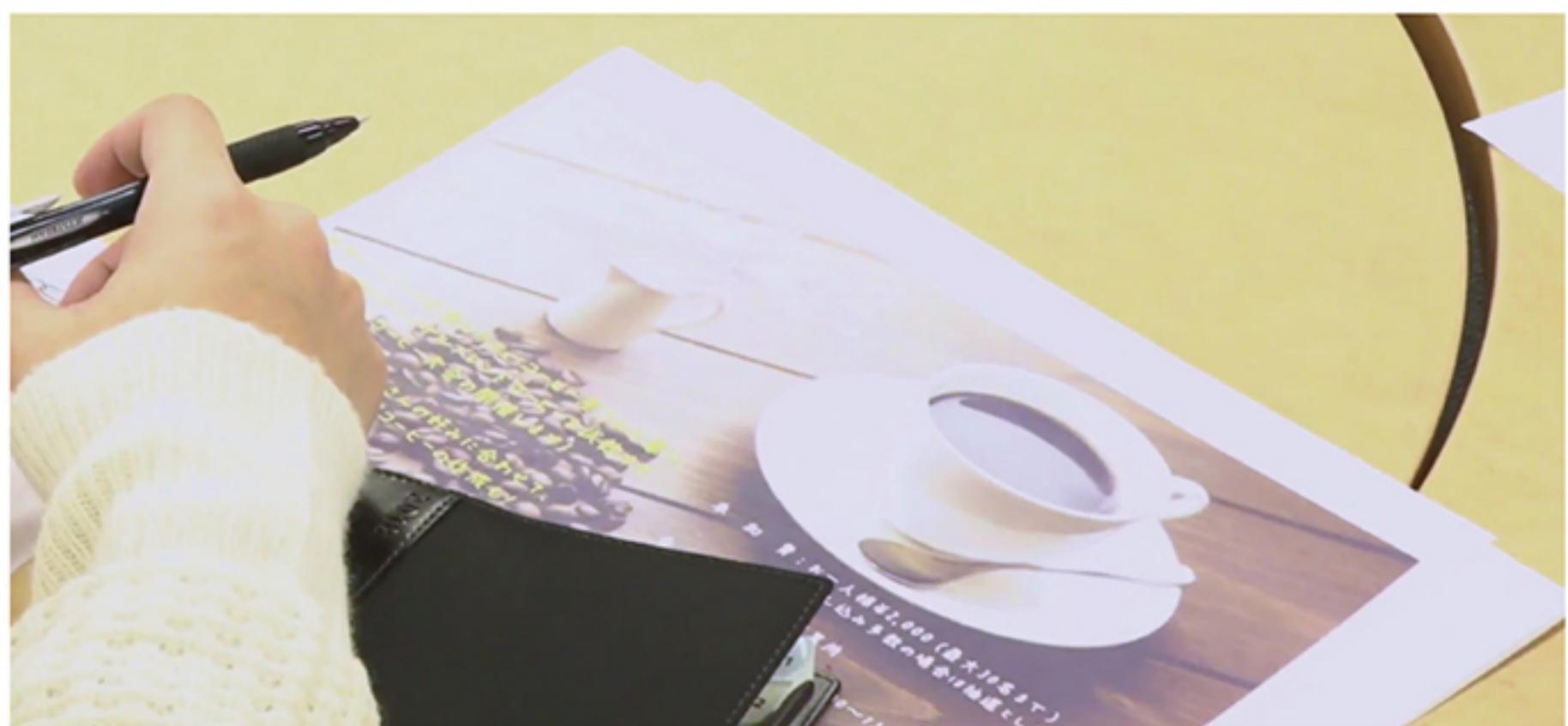
「周南ランプフェス」～人と街と灯りプロジェクトの取り組みと目標

地元企業や工業高校と協力し、周南地域の素材・技術・人材という資源を結集させ、新たなデザインのランプを作成した。空気の対流を利用してランプの灯をともし続ける点に苦労したが、若者の新鮮な発想を取り入れることで今までにないデザインのランプを作ることに成功し、このランプを福川地区を中心にイベント等で活用して周知を高めた。また、ランプを通して福川地区だけでなく、地区外の団体同士のコミュニティ組織が活性化できるようイベント開催などの活動を続け、地域の連携を高めていきたい。

「周南ランプフェス」～人と街と灯りプロジェクトでのランプの役割

福川ランプのイベントを開催するにあたり福川地域の住民同士でコミュニケーションが生まれ、連携がとれるようになった。また、プロジェクトを立ち上げたことで地元企業と工業高校が結びついたように、ランプを起点として様々な交流が生まれ、コミュニティ組織の活性化に繋げて欲しい。この福川ランプが地域の方に愛される灯火として多くの人に知ってもらいたい「自然の火」というものを見て癒されたり、楽しんでもらいたいと考えている。

【取材日:2017.11.27 / 2017.12.23】



「周南地域観光塾プロジェクト」
一般財団法人 周南観光コンベンション協会 × 徳山大学

教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生

新たな観光資源・人材を発掘し周南地域の交流人口の拡大を図る

周南地域が他の観光地と比べて、誘客に対する訴求力が相対的に弱いことから、各地域の住民・観光関係機関・企業が一体となって観光について考え、さらに新たな観光資源や人材の発掘、情報発信を行い、観光誘客の推進と共に交流人口の拡大を図る。

PROJECT POINT

- ① 多方面からの意見を取り入れた魅力的な「旅行商品」の造成
- ② 大学生を対等の立場でプロジェクトに参加させ人材育成を行う

APPROACH ➤ 留学生・市外県外出身の若者が多い地元大学と協力し観光誘客の推進を図る

“周南地域観光塾プロジェクト”的取り組み

周南地域は他の観光地と比較し、誘客に対する訴求力が弱いため、留学生や市外県外出身者の若者が多い徳山大学と協力し、様々な視点から意見を集め、周南地域の「旅行商品」の造成に取り組んだ。もっと若者に観光に来てもらうため、周南地域の新たな魅力溢れるツアーを学生と共に企画している。また、学生にとっても大人主体ではなく、同じ立場で共にプロジェクトを進めていくことで人材育成も行っている。

“周南地域観光塾プロジェクト”的目標

徳山大学と協力し、たくさんの方に周南市に観光に来ていただけるような「旅行商品」をこれからも開発していく。一人でも多くのファンになっていただき、周南市に再度観光に来ていただくことで周南地域の交流人口を増やし、活性化に繋げていきたい。

【取材日：2017.12.19 / 2017.12.20】



「周南タク酒プロジェクト～酒蔵ツーリズム～」

JTB中国四国徳山支店 × (一財)周南観光コンベンション協会

- | | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教育・子育て | <input type="checkbox"/> 地域づくり | <input type="checkbox"/> 福祉・健康・医療 | <input checked="" type="checkbox"/> 産業・観光 | <input type="checkbox"/> その他(国際交流) |
| <input type="checkbox"/> 生涯学習・人権 | <input type="checkbox"/> 安心安全 | <input type="checkbox"/> 都市基盤 | <input type="checkbox"/> 環境共生 | |



新たな観光資源の発掘

周南市内に集客力のある観光資源が乏しく、代表的な特産品等がない中で、周南市にある3つの酒蔵を観光コンテンツとしてさらに磨き上げ、着地型商品を開発し、全国にPR・情報発信することで観光客の誘致、周南市産の酒の消費拡大と交流人口の増加を図る。

PROJECT POINT

- ① 従来ある酒蔵をさらに磨き上げ、新たな観光資源として開発
- ② 新たな観光資源である3つの酒蔵をタクシーで巡る試飲可能な観光ツアーの造成
- ③ 今流行の「インスタ映え」を狙った観光ツアーでより多くの集客を図る

APPROACH ▶ 周南市の新たな観光コンテンツと観光ツアーの造成

“周南タク酒プロジェクト～酒蔵ツーリズム～”の取り組み

山口県の日本酒が、日本全国で10年連続生産・出荷量が伸びているにも関わらず、知名度が低いため、地域限定旅行業（地域の観光資源を活用した旅行商品や体験プログラムを旅行者へ提供するための旅行業登録）の免許を取得している周南観光コンベンション協会と「タク酒プロジェクト」を企画していたJTBが提携して、周南市に從来ある3つの酒蔵をさらに磨き上げ、周南市の観光コンテンツを造成した。また、タクシーで巡る試飲可能な観光ツアーを作ることで周南市産の酒の消費拡大と交流人口の増加を図った。

“周南タク酒プロジェクト～酒蔵ツーリズム～”の目標

「タク酒」という新しい酒蔵観光ツアーを全国のターゲット（特に女性）に知っていただくために、現在はチラシやWEBで情報発信しているが、今後は報道や新聞などのマスコミに取り上げてもらえるような仕組み作りをしたい。また、インスタ映えする観光ツアーなので、ターゲットである女性にインスタなどのSNSで発信してもらうことで、より多くの方に周知していくことが可能である。さらに観光客が増えれば、バスで巡る酒蔵観光ツアーにグレードアップさせ、さらなる観光客の誘致、周南市産の酒の消費拡大と交流人口の増加を図りたい。

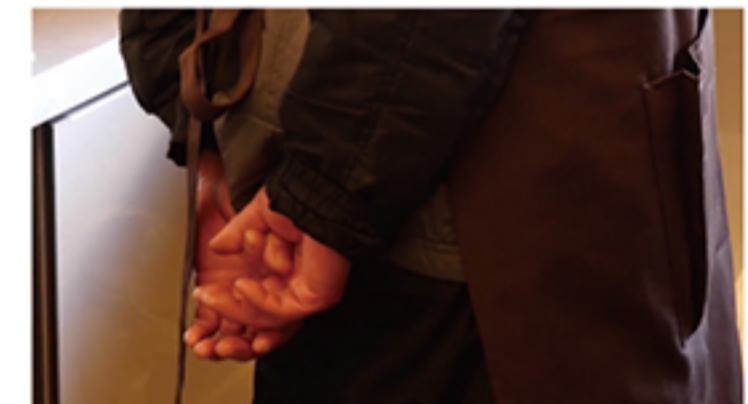


「ぼくらのお仕事プロジェクト」

NPO 法人まなびデザインラボ × 一般社団法人周南ツーリズム協議会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生

問題意識



40歳以上のニート・引きこもりの方に対する就労支援

ニートや引きこもり状態にある人に対して道の駅を基点に手焼きせんべいの店頭販売、中山間地域への食料品等の販売を行うことで、就労機会の提供と人口減少・少子高齢化が進む中山間地域での住民との交流の場を創出する。

PROJECT POINT

- ① 40歳以上のニート・引きこもりの方が再チャレンジできる場を提供する
- ② 中山間地域への食料品等の販売・住民の方との交流

APPROACH

社会復帰できる仕組みを備えた店を出店し、対象者をサポートする

“ぼくらのお仕事プロジェクト”的取り組み

40歳以上のニート・引きこもりの方というのは、非常に就労することが難しく、社会復帰できる機会が少ない。その方達が再出発する時にサポートすることができる機関があればという思いから、共創プロジェクトに参加し「ぼくらのお仕事プロジェクト」を始動させ、道の駅「ソレーネ周南」に就労支援機能を備えた店「こばら屋」を出店した。そこで社会復帰に向けてサポートをしている。将来的にそのまま「こばら屋」に就労されたい場合や、「ソレーネ周南」に就労されたい場合などにも対応できるように動いている。

“ぼくらのお仕事プロジェクト”的目標

高齢化・過疎化が進む中山間地域では、食料品・生活用品を購入できる場所が遠く、困っている方が多いため、就労支援対象者の方に中山間地域に生活必需品の移動販売を行ってもらい、そこで色々な方とコミュニケーションをとりながら自立できるような仕組みを作りたい。



「三丘よろず承りカフェ～地域の世話焼きおばさん復活～プロジェクト」

machi-mori × 熊毛町商工会 × ほっと三丘コミュニティ協議会

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他（国際交流）
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



三丘地区の情報を効果的に提供するために、情報を集約した地域の拠点を立ち上げる

過疎化が進み、子どもの人口減少が大きな課題となっている三丘地区の情報を集約し、効果的に情報提供するための地域の拠点を立ち上げる。

また、空き家の振り起こしによる移住促進や地区的コンシェルジュとしての役割を果たす“世話焼きおばさん”を復活させ、地域に根付いた活動をしていく。

PROJECT POINT

- ① 移住・観光情報の発信、女性の雇用創出などまちづくりの拠点をつくる
- ② 地元の食材を活用した商品開発

APPROACH ▶ 空き家を改修したカフェを拠点として利用し、三丘の問題解決に取り組んだ

“三丘よろず承りカフェ～地域の世話焼きおばさん復活～プロジェクト”的取り組み

情報発信や女性の雇用創出などを考え、まちづくりの拠点・情報発信の場が欲しいと思い共創プロジェクトに参加した。三丘地区にあった空き家を改修し「Taverna TABETA?（タベルナタベタ？）」というカフェをオープン。これまで三丘地区の情報は市民センターを中心にしていてが、これからはこのカフェを使い空き家などの情報を集約し、発信していく。

“三丘よろず承りカフェ～地域の世話焼きおばさん復活～プロジェクト”的目標

地元の食材を活用した商品開発を進めていき、カフェでの販売を考えている。また、SNSを通じて情報発信を行ったことで、若い世代の方から「お店で働きたい」と連絡があり雇用創出に繋げることができた。こうした活動に取り組みながら三丘地区的情報発信を続けていき、さらにまちづくりを進めていきたい。

【取材日：2018.08.24】



「長野山天空カフェプロジェクト」

長野山生活改善グループ × 「鹿野の風」プロジェクト × 渋川をよくする会

教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生

長野山天空カフェ外観

実際の活動の様子

カフェのメニュー

車で登ることができる1000m級の山を活かし、天空カフェとして老朽化したロッジを改修する

自然環境に恵まれた鹿野の長野山にあるロッジをオシャレな天空カフェとして改修し、施設や地域全体の付加価値を高め、交流人口を増やすことで、過疎化が深刻な渋川地区的観光・定着人口の増加を図る。

PROJECT POINT

- ① 地域の次代を担う後継者が働くことの出来る場所を生み出す
- ② 交流人口の増加を図るために、地域の象徴である長野山に天空カフェをオープンし地域の起爆剤とする

APPROACH

地域一丸となって長野山ロッジを改修し、天空カフェをオープンすることで誘客につなげる

「長野山天空カフェプロジェクト」の取り組み

渋川地区は過疎化が深刻な問題であり、次代を担う後継者不足が大きな悩みである。まずは車で登ることができる地域の象徴である1,000m級の長野山に天空カフェを実現し、交流人口を増やして地域の活性化を図った。天空カフェは元々長野山にあるロッジを改修し、山顶から見える美しい自然を堪能しながら寝げるウッドデッキを設置。改修作業には地域に住む人の協力もいただけた。

「長野山天空カフェプロジェクト」の目標

現状は一ヶ月に1,500～1,600人が長野山を訪問する。また、天空カフェを開設したことで、長野山に訪れる若者が増加し、地域の起爆剤になったように感じる。今後の目標としては周南市への天空カフェにして、この場所で若者が働きやすい環境づくりにも積極的に取り組んでいきたいと思う。

【取材日：2018.09.10】



白子筍



竹の伐採



竹粉

「竹の活用による地域活性化プロジェクト」

山口バイオマス利用研究会 × 周南なすなのは会 × 梶谷工業

- 教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他（国際交流）
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生



森林破壊に繋がる竹林繁茂を防ぎ、伐採した竹や整備した竹林などを有効活用する

竹の適正な伐採を行うことにより森林破壊につながる竹林繁茂を防ぎ、伐採した竹から竹粉を製造して有機肥料として利用することで、農業の振興に寄与する。
整備された竹林による最高級のタケノコ（白子筍）を生産し、特産品化を図る。
また、森林資源を有効活用するため、林道・作業道等を整備し、他にも有効活用する道を探る。

PROJECT POINT

- ① 森林破壊に繋がる竹林繁茂を防ぐ
- ② 整備した竹林・林道・作業道を有効活用する

APPROACH ▶ 伐採した竹を堆肥化し農業に役立て、整備された竹林から特産品を生み出す

「竹の活用による地域活性化プロジェクト」の取り組み

竹林を整備する際に伐採した竹を、竹粉として堆肥化した。これを野菜などの農作物に使用し、新たな堆肥として有機栽培に利用することで農業の振興に役立てる。周南なすなのは会ではこの竹粉から生まれた堆肥を使い、出来上がった農作物の検証を進めている。また、整備された竹林から生まれる最高級のタケノコ（白子筍）の生産にも取り組んだ。こちらは道の駅で販売しており、大変人気を博している。

「竹の活用による地域活性化プロジェクト」の目標

今後も竹林を整備しながら数多くの竹筍を整備し、竹林にしていかたいが、それは本プロジェクトだけの活動ではないため、竹粉製造機の貸出しを行い、より多くの人にこの活動を広めていって欲しいと考えている。森林バイオマスの普及に努め、山口県全体に広がっている森林資源を色々な形で活かしていただきたい。



「地ビール開発大津島すだいだいビールプロジェクト」

周南料飲組合 青年部 × 大津島地区コミュニティ推進協議会

教育・子育て 地域づくり 福祉・健康・医療 産業・観光 その他(国際交流)
 生涯学習・人権 安心安全 都市基盤 環境共生

すだいだい収穫の様子

すだいだい収穫の様子

収穫したすだいだい

工場でのすだいだいビール製造の様子

周南市の特産品を生み出し、団体の抱える悩みを解決する

地ビールは、全国的に認知された地域商品であり、商品力が高いことから、周南市独自の地ビールとして、大津島で多く収穫できる「すだいだい」を利用した付加価値の高い地ビールを生産し、島の特産品を生むとともに、商業力を高め、周南市内での飲食店舗の活性化を図る。

PROJECT POINT

- ① 大津島の新たな特産品の開発
- ② 地域資源の有効活用
- ③ 中心市街地(飲食店)の活性化

APPROACH ▶ 大津島産のすだいだいを使った地ビールを開発する

“地ビール開発大津島すだいだいビールプロジェクト”的取り組み

大津島には農家の高齢化が進み、収穫・出荷されないままのすだいだいがあり、これを大津島の特産品として活用できないだろうかと考えた。また、周南料飲組合では、周南市でアビールできる特産品を作りたいと思っており、大津島のすだいだいが名産であることを知り、コラボレーションすることで特産品が作れるのではないかと思い連携した。連携したことでのビールの商品化を実現することができた。多くの人に周知するために完成披露イベントを開催し、市内の飲食店への訪客に驚かせる広報活動を行った。

“地ビール開発大津島すだいだいビールプロジェクト”的目標

2018年には6,000本のすだいだい地ビールを完売することができた。2019年にはもっと多くの地ビールを生産する予定。地ビールを開発したことにより大津島のすだいだいの収穫・出荷の課題を解決できた。今後は、大津島にあるすだいだいの木の管理を強化し、質の良いすだいだいの生産に努めたい。すだいだい地ビールを飲んだ人の笑顔が生産者にとって最大の喜びである。今後も力を合わせて挑戦し続けたい。

【取材日：2018.11.27 / 2018.12.13】



「鹿野和紅茶プロジェクト」

かの高原開発 × ふれあい作業所「鹿音」 × 鹿野町商工会 × 鹿野ブランド創出研究会

鹿野和紅茶

<input type="checkbox"/> 教育・子育て	<input type="checkbox"/> 地域づくり	<input type="checkbox"/> 福祉・健康・医療	<input checked="" type="checkbox"/> 産業・観光
<input type="checkbox"/> 生涯学習・人権	<input type="checkbox"/> 安心安全	<input type="checkbox"/> 都市基盤	<input type="checkbox"/> その他(国際交流)
		<input type="checkbox"/> 環境共生	



鹿野和紅茶



開発中のパッケージ



茶畠

鹿野地域のお茶文化の復元を目指す

1.新たな特産品(鹿野和紅茶)の開発 2.地域資源(茶樹)の活用
 3.地域固有のお茶文化の継承 4.新たな担い手の確保

PROJECT POINT

- ① 鹿野茶と同一の茶葉を使った『紅茶』を開発し、『鹿野和紅茶』として商品化に取り組む
- ② 『鹿野和紅茶』の生産量の増加を図り、地域固有のお茶文化を継承する

APPROACH ➤ 特産品開発による地域文化復興と活性化

“鹿野和紅茶プロジェクト”的取り組み

鹿野は過疎化の進んだ小さな町だが、古くからお茶文化の歴史がある。この歴史ある鹿野茶をもう一度復興していくために、紅茶を開発し、『鹿野和紅茶』として商品化に取り組んでいる。実際に製造した鹿野和紅茶を試飲して評価していくだけ取り組みの中で「香りが良く飲みやすい」などの声をいただいており、これから商品化に期待を寄せていく。また、ふれあい作業所鹿音は、高齢者支援をする事業所だったが、障害者の就労に関わる作業所を開設し、主に施設の清掃や環境整備を行ってきた。これまでには無形なもののが多かったので、何か形に残る作業を行うことで障害者の方に作る喜びを感じてもらいたいと思っている。

“鹿野和紅茶プロジェクト”的目標

鹿野和紅茶の製造・販売により、地域資源(茶樹)の活用による生産拡大、ふれあい作業所鹿音との連携による地域の新たな産業創出ができた。また、地域内の飲食店でのメニュー一展開も含めた商品化を図り、観光資源としての活用による鹿野地域への集客拡大など、地域の活性化に繋げて行きたい。鹿野地域でも改めて鹿野のお茶文化を見直すべきとなっており、多くの人と間わりながらこれから地域活性化のために商品開発を進めて行く。

【取材日: 2018.12.10】



「転勤族のママ目線で「共に創る」子育て・生活応援プロジェクト」

Hapimama plus × 子育て応援クラブえこま

- | | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教育・子育て | <input type="checkbox"/> 地域づくり | <input checked="" type="checkbox"/> 福祉・健康・医療 | <input type="checkbox"/> 産業・観光 | <input type="checkbox"/> その他(国際交流) |
| <input type="checkbox"/> 生涯学習・人権 | <input type="checkbox"/> 安心安全 | <input type="checkbox"/> 都市基盤 | <input type="checkbox"/> 環境共生 | |



他地域から転勤・移住してきた子育て中のママをオンライン・オフラインの両面から応援する

他地域からの転入者の目線に合わせたホームページを制作することで、
「子育てするなら周南市」を浸透させて楽しいイメージを持ってもらいたい。
また、転勤族のママの悩みを共有できるスペースの提供を目指す。

PROJECT POINT

- ① 公園など写真を使った分かりやすい遊び場などの情報を整理する
- ② コミュニティづくりのためのオフ会の開催

APPROACH ▶ 子育て世代に目線を合わせたホームページの開設とママカフェ(オフ会)の開催

“転勤族のママ目線で「共に創る」子育て・生活応援
プロジェクト”的取り組み

公園等の写真を使った分かりやすい遊び場の情報や、トイレ、自動販売機の設置情報などを育て世代に目線を合わせた「応援WEBサイト」づくりを進めている。毎月1回「ママカフェ」を開催しており、情報共有・意見交換の場所にしている。特に転勤などで市外からやってきたママのモノの捉え方や考え方、市内に住むママの視点などを皆で共有することができ、有意義な会と好評である。

“転勤族のママ目線で「共に創る」子育て・生活応援
プロジェクト”的目標

今後は皆さんのがイベントなどに参加しやすい環境づくりや、周南の情報を共有しやすくなるために子育て応援クラブえこまとHapimama PLUSの良い所をもとと高め合って協力していきたい。また、ママ友を沢山つくることによって、周南市で過ごした思い出を良いものにしてもらいたい。もし周南市を離れることになってしまっても「また遊びに行きたい」と思ってもらえる楽しい街づくりや、「子育てしやすい周南市」を目指して活動していく。

【取材日: 2018.12.12, 2019.01.17】